

Hem21

NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **45** 平成26年
(2014) 5月

CONTENTS

- ① 兵庫県音楽療法士認定証
交付式・記念講演会
- ②～③ 平成25年度の研究成果に
ついて
- ④～⑤ 第3期中期目標・中期計画、
平成26年度事業計画、平
成26年度の研究テーマ
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

3月11日午後、「平成25年度兵庫県音楽療法士
認定証交付式・記念講演会」が、兵庫県こころのケ
アセンターで開催されました。

新規認定者14人に兵庫県から認定証が交付さ
れるとともに、東邦音楽大学准教授の二俣泉氏の
記念講演会、新規認定者の実践活動発表が行わ
れ、音楽療法を実践中の病院や学校、高齢者・障害
者福祉施設等の職員、音楽療法士、音楽療法団体
関係者・研究者など約130人が参加しました。



金澤副知事から認定証を交付される平成25年度認定者代表

式典では、金澤和夫兵庫県副知事から新規認
定者に「兵庫県音楽療法士認定証」が交付されま
した。金澤副知事は、音楽療法士としての門出を祝
われるとともに「兵庫県を中心に、東日本大震災の被
災地をはじめ日本を引っ張っていくような活動の展開
を期待する」と激励の言葉を贈られました。また、加
田裕之兵庫県議会副議長から「皆さんの助けが必要
な人が多く待っており、活発に活動し、活躍を広げ
てほしい。震災を経験した兵庫県のメンバーとして、
一緒に困難に立ち向かっていきたいと思う」と祝辞
が述べられました。

続いて、兵庫県音楽療法士認定審査会を代表し
て司馬良一委員長が「申請者15人について、知識・
技術・適性の観点から厳正な審査を行い、14人を合
格と判定した。これまで学んだことを生かし、対象者
の方の尊厳を守り、倫理性をわきまえて、喜んでいた

平成
25年度

兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会 「変化をもたらし存在としての音楽療法士」を開催

だけの音楽療法の提供を願っている。これからは研
鑽^{けん}を積んで、さらに上を目指してほしい」と審査講評
を行いました。

次に「変化をもたらし存在としての音楽療法士」
と題した記念講演会での講師の二俣氏による実践
の具体例を交えたお話は、大変興味深く、新規認定
者のもとより、参加者にとって大変意義深いものとな
りました。

「音楽療法は、音楽の花束を対象者に届けて慰
めるというものではない。音楽療法士は、対象者に変
化を強いる存在であることを忘れずに、対象者に変
わりたいと思わせ、今できる最大限の努力で到達可
能な変化ができるように手助けし、そのためには対
象者にとって楽しいだけでなく、嫌なことも経験する
ことにより、自分自身の力で満足をつかみ取る能力を
育てることも必要であると私は思っている。今日、認
定された皆さんは、理論的に筋が通り、人に説明でき
る自分なりの音楽療法観を持って活動していってほ
しい」と語られました。



講師の二俣泉氏

兵庫県音楽療法士

音楽療法とは、「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働き
を用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生
活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画
的に使用すること」を言います。

兵庫県では平成11年度に音楽療法士養成事業を開始
し、13年度から県独自の「兵庫県音楽療法士」の認定を行
っており、26年3月までに315人を認定。養成講座は、当機
構こころのケアセンターが実施しています。

平成25年度の研究成果について

● 研究テーマと担当研究員

「ローカル・ガバナンスが創る共生社会の考察」 (平成24・25年度研究)

担当：安藤 仁朗 主任研究員

貧困や格差、社会的排除などのリスクに、社会全体として十分に対応できていない現実がある。

また、社会的孤立や生活困窮者自立など、従前の制度、枠組みでは解決困難な事例がローカル・レベルにおいて顕在化しつつある。

このため、市民セクターの参画と協働による「公益インフラ」の構築および公共サービスの多様性と供給主体の多元化をめざす、自律的・分権的なコミュニティの創生のあり方について検討し、政策提言を行った。



「過疎と都市への集中の両極化が進む中でのコミュニティづくり」(平成25年度研究)

担当：金 政芸 主任研究員

行政だけでは対応できないさまざまな地域課題が顕在化する一方、郡部では少子高齢化・過疎化が、都市部では人間関係の希薄化が進み、コミュニティの弱体化が深刻になりつつあることから、地域の特性にあったコミュニティの活性化が求められる。

このため、地域のソーシャルキャピタルの醸成が安全・安心な住みやすいコミュニティづくりにつながることに注目し、地域の特性にあった、ソーシャルキャピタルを高めるためのコミュニティづくりの方策について検討し、政策提言を行った。



「国際防災協力体制構築の検討～アジアを中心に～」(平成24・25年度研究)

担当：富永 泰代 主任研究員

従来の予想をはるかに凌ぐ大規模な自然災害が近年アジアで頻発しており、防災分野での円滑かつ効果的な国際的支援・協力体制の構築が求められている。

このため、①東日本大震災時における海外支援受け入れ体制の実態把握と、望ましい「受援」のあり方②アジアにおける災害時の国際人道支援のあり方③アジアにおける市民レベルの防災意識を高める防災教育への支援のあり方について検討し、政策提言を行った。



「災害時の広域連携支援の役割の考察」 (平成24・25・26・27年度研究)

担当：梶原 晶 研究員

大規模震災発生時に早急な復旧・復興を行うためには、被災自治体の行政活動を支援する必要がある。このため関西広域連合が東日本大震災で行った災害支援活動に関して、各府県の支援および受援の体制に注目しながら検証を行った。また、自治体間で結ばれている災害時応援協定について、東北被災三県下の市町村における締結状況を調査するとともに、アメリカの連邦緊急事態管理庁の調査を行った。以上の調査を通して、災害時の広域連携支援における日本の防災行政制度の問題点と将来的な課題について検討を行った。



あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。
あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との
つなぐ。
それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお～！

「大震災復興過程の比較研究～関東、阪神・淡路、東日本の三大震災を中心に～」(平成24・25・26・27年度研究)

担当：渡邊 公太 研究員

次なる大震災に対してどのような「備え」をすべきか、とりわけ復旧・復興を担う政治や行政のあり方が問われている。このため、関東、阪神・淡路、東日本の三大震災を対象として、①震災をめぐる社会的認識②政府の危機管理③復旧・復興の政治過程について政治学・行政学的観点から比較研究をし、将来のあるべき災害等の政治・社会体制のあり方について検討を行った。



「東日本大震災生活復興プロジェクト(平成25年度復興庁委託事業)」(平成25年度研究)

担当：高野 尚子 研究員

東日本大震災から3年が経過し、地域によって、また、置かれた状況によって、被災者間の復興格差が顕著になっている。このため、生活復興に関わる分野(暮らし・生きがい・健康、住まい、しごと、まち、学びと協働)における現在の課題やその解決策について検討し、その成果を東北および神戸のフォーラムで情報発信するとともに、報告書「生活復興のための15章」としてまとめ、東北被災地のみならず全国の自治体、大学等に配布した。



東日本大震災生活復興フォーラム (平成25年度復興庁委託事業)を開催

当機構は昨年度、復興庁から委託を受け、生活や暮らしの視点から東日本大震災の被災者を支援するため、「東日本大震災生活復興プロジェクト」に取り組みしました。

プログラムの成果を発信するとともに、被災者への支援の継続を働きかけていくため、神戸市と仙台市で「東日本大震災生活復興フォーラム」を下記のとおり開催しました。両フォーラムとも、個人、企業、地域団体、NPOなど当初の予定を大幅に上回る多数の参加を得て、盛況のうちに終わりました。

【フォーラム内容】

●3月5日(水)兵庫フォーラム(参加者約460人)

1 基調講演

室崎益輝((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長)
「東日本大震災の生活復興に向けて～阪神・淡路大震災の教訓から考える～」

2 報告

広田純一(岩手大学農学部教授)、山本克彦(岩手県立大学社会福祉学部准教授・災害復興支援センター長)、開沼博(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員)

3 パネルディスカッション

パネリスト:広田純一、山本克彦、開沼博、大森綏子(兵庫県看護協会前会長)、加藤寛(兵庫県こころのケアセンター長)、中村順子(認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長)、室崎益輝
コーディネーター:清原桂子((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長)



兵庫フォーラム

●3月19日(水)東北フォーラム(参加者約280人)

1 基調講演

広田純一(岩手大学農学部教授)
「東日本大震災の生活復興～コミュニティの再生をめざして～」

2 報告

佃祥子((公社)宮城県看護協会会長)、山崎庸貴((一社)ふくしま連携復興センター理事・事務局長)、菊池広人(NPO法人いわてNPO-NETサポート事務局長)

3 パネルディスカッション

パネリスト:池田昌弘(NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長)、開沼博(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員)、鹿野純一(NPO法人アットマークリアスNPOサポートセンター代表理事)、広田純一、横山英子(仙台経済同友会幹事、榎横山芳夫建築設計監理事務所代表取締役社長)、室崎益輝((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長)
コーディネーター:清原桂子((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長)



東北フォーラム

第3期中期目標・中期計画

1 基本的な考え方

兵庫県の第3次行財政構造改革推進方策の下、発生が予測されている南海トラフ地震等に備えた取り組みを進めるとともに、高齢化と人口減少が進行している状況を踏まえ、「安全安心なまちづくり」と「共生社会の実現」に向けた調査研究等を、兵庫県やHAT神戸に集積した機関等と連携しつつ、効率的かつ効果的に推進する。(期間:平成26年4月～30年3月(4年間))

2 主な内容

(1) 研究調査本部

研究領域を「震災の教訓・災害復興」「共生社会の実現」の2分野に重点化するとともに、研究企画委員会を設置し、県、関係機関等との研究連携の推進を図る。

(2) 学術交流センター

自治体災害対策全国会議を引き続き開催するとともに、マスメディアと連携したシンポジウム等を実施し、研究成果等の普及・啓発に取り組む。

(3) 人と防災未来センター

阪神・淡路大震災の経験と教訓の発信に加え、南海ト

ラフ地震への備え、東日本大震災復興支援等を重点テーマとして企画展等を実施するとともに、内閣府の有明の丘基幹的広域防災拠点施設等での研修を通じて、災害対策専門職員を育成する。

(4) こころのケアセンター

東日本大震災被災地への継続的な支援を行うとともに、兵庫県版災害派遣精神医療チームの体制づくりに参画する。

(5) 管理部

ガバナンス強化のため機構経営会議等を開催するほか、運営体制や経費執行の見直しに努める。

(6) 阪神・淡路大震災20周年事業の展開

「伝える」「備える」「活かす」を基本コンセプトに、機構のこれまで蓄積してきた知見等を最大限に生かし、多彩な取り組みを行う。

(7) 中期目標・中期計画の見直し

平成27年度中に行う機構の今後のあり方の検討結果を踏まえ、必要に応じた見直しを行う。

平成26年度事業計画

1 基本方針

第3期中期目標・中期計画を踏まえ、阪神・淡路大震災から20周年を迎えることから、被災地兵庫にあるシンクタンクとして、当機構がこれまで蓄積してきた知見・ノウハウを生かし、震災20周年のさまざまな事業を展開する。

2 主な取り組み

(1) 調査研究事業

機構内をはじめ、神戸東部新都心(HAT神戸)に集積する研究機関や兵庫県立大学との連携を深めながら、阪神・淡路、東日本大震災から得られた教訓を生かした生活復興や広域連携のあり方、大災害からの復興過程の比較検証等について検討するとともに、多自然地域における新たなビジネスの展開など、21世紀の成熟社会における喫緊の課題についての実践的な政策研究に取り組む。また、「災害対策全書」を改訂するほか、新たに「大震災復興過程の比較研究」について、東京および神戸でシンポジウムを開催し、研究成果の発信を推進する。

(2) 学術交流事業

震災20周年に着目したテーマ設定により、「自治体災害対策全国会議」を始めとして、シンポジウム、フォーラ

ム等を開催するとともに、情報誌の発行、ITの活用などの多様な媒体により、機構の活動や研究成果に係る情報発信の強化に努める。また、兵庫地域にゆかりのある多彩な知的資源の蓄積を活用した講座を引き続き開催する。

(3) 人と防災未来センターの運営

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、そこから学んだ教訓を未来に生かすことを通じて、防災に関する知識および技術の普及、防災政策の形成支援を行い、地震等の被害の軽減を図るため、分かりやすく伝える展示事業、実践的な防災研究、災害対策専門研修の充実などに努める。さらに、阪神・淡路大震災被災地による「兵庫行動枠組」の検証、「超巨大災害対策総合シンポジウム」の開催、「震災メモリアル特別展示」等、震災20周年事業に取り組む。

(4) こころのケアセンターの運営

トラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する研究や研修、相談、診療、被災地支援活動などを実施するとともに、いのちの尊厳と生きる喜びを高める「ヒューマンケア」の理念に基づく人材育成を行う。さらに、「こころのケア」国際シンポジウムを開催するほか、兵庫県版災害派遣精神医療チーム(ひょうごDPAT)体制整備事業に取り組む。

平成26年度の研究テーマ

ひょうご震災記念21世紀研究機構では、研究調査本部と人と防災未来センター、こころのケアセンターの各研究部で研究調査活動を行っており、平成26年度は次の内容の研究に取り組みます。

1 研究調査本部

- ・災害時の広域連携支援の役割の考察
- ・大震災復興過程の比較研究
～関東、阪神・淡路、東日本の三大震災を中心に～
- ・災害時の生活復興に関する研究
- ・人口減少下の多自然地域の魅力づくりの研究
～シニア世代を活用した新たなビジネス展開～
- ・リスボン地震とその文明史的意義の考察

2 人と防災未来センター

(重点研究領域)

- ・災害初動時における人的・社会的対応の最適化

- ・広域災害に向けた組織間連携方策の高度化
- ・地域社会の復旧・復興戦略の構築

3 こころのケアセンター

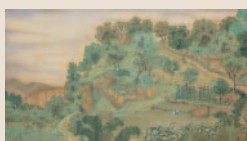
- ・災害時こころのケアマニュアル(兵庫県版)作成に関する研究
- ・自殺未遂者家族への支援の重要性と課題
- ・職場の実態把握(ストレスチェック)を基にした職場改善プログラムの試み
- ・阪神・淡路大震災が被災者のこころの健康にもたらした長期的な影響に関する研究
- ・東日本大震災の復興期の支援に関する研究
- ・子どものトラウマの標準的な評価方法についての研究
- ・人命救助に係る災害救援組織のハラスメントに関する調査研究

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

阪神・淡路大震災20年展 東京・ソウル・台北・長春 官展に見る近代美術

20世紀前半の東アジアの美術を、官設の公募美術展(官展)という切り口から考える展覧会です。官展の出品作や審査員を務めた作家の作品を中心に、日本、韓国、台湾、中国東北部の近代美術の諸相を、約130点の作品で紹介いたします。絵画や書、彫刻、工芸作品から共通点とオリジナリティを見つめ、各地の「近代」を探ります。



郭雪湖(郭・シュエフ)
《円山付近》1928年 台北市立美術館

■会期＝6月14日(土)～7月21日(月・祝)
※次の日程で一部作品の展示替えを行います
前期:6月14日(土)～29日(日) 後期:7月1日(火)～21日(月・祝)
■観覧料＝一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料
※()内は、20人以上の団体割引料金
※障害のある方とその介護の方1人は当日料金の半額(65歳以上除く)

関連事業 記念講演会

「朝鮮美術展覧会の画家たち」

講師:金炫淑(キム・ヒョンスク)氏(徳成女子大学 人文科学研究所 研究教授)
日時＝6月15日(日)15時から(約90分)
場所＝ミュージアムホール(定員250人)
参加費＝無料

「異郷の昭和美術―中国東北部の日本人社会と満洲国美術展覧会」

講師:江川佳秀氏(徳島県立近代美術館 学芸調査課長)
日時＝7月13日(日)14時から(約90分)
場所＝ミュージアムホール(定員250人)
参加費＝無料

◎休館日＝月曜(7月21日は開館)
◎開館時間＝10時～18時(金曜・土曜は20時まで)
※入場は閉館の30分前まで
TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

国際協力連続セミナー in JICA関西 「～共に考えよう!世界のためにできること～」

NGO・NPO、自治体、民間企業、国際機関などのさまざまな団体が、国際協力に携わっています。「どのような取り組みを行っているのか?」「自分たちの生活にどう直結するのか?」などについて、多彩な分野で活躍する講師がお話します。この機会に、ぜひ、ご参加ください!

■日程＝6月9日から7月14日までの月曜日 18時30分から20時まで

■会場＝JICA関西

■参加費＝無料 ※要事前申し込み

▶申し込み方法＝お名前・所属・連絡先(電話番号、FAX番号、メールアドレス)を明記の上、メールまたはFAXでお申し込みください。メールの場合は、件名を必ず「国際協力連続セミナー(希望日)」としてください。

食えることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どんなでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理の6月はブラジル料理、7月はトーゴ料理をご用意します!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



写真は4月のウガンダ料理

メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間＝(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0342

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!→ <http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

活動資金にご協力をお願いします。

日本赤十字社兵庫県支部では、阪神・淡路大震災などの経験と教訓を踏まえ、災害救護体制の強化を図るとともに、災害や事故等を想定した訓練に積極的に参加するなど、災害対応力の強化に取り組んでいます。

また、皆さまの身近で行う活動として、安全安心な暮らしのために県内の警察施設へのAEDの設置、もしものときの手当てや事故防止に必要な知識と技術を学ぶ講習会の開催、思いやりと行動力を育む青少年赤十字活動等に取り組んでいます。

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。



◎活動資金受け付け先

郵便局・ゆうちょ銀行

口座記号番号:01110-0-1136

口座加入者名:日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いは、振込手数料は無料です

◎お問い合わせ

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫

検索

新任研究員紹介

研究主幹 照本 清峰

4月1日付けで人と防災未来センター研究部に研究主幹として着任しました照本清峰です。2010年3月に人と防災未来センターを離任し、和歌山大学防災研究教育センター、徳島大学環境防災研究センターに赴任後、人と防災未来センターには4年ぶりに戻ってまいりました。

以前、人と防災未来センターに在籍していた時には、東海・東南海・南海地震の発生を見据えた広域災害の対応、地域の復興支援方策の研究、自治体の防災担当職員の人材育成に関する研修プログラム等を中心として研究活動を行っていました。在籍時には、それまで知らなかったような視点から多くの方々にご示唆をいただき、さまざまな学びと刺激を得ることができました。大変感謝しております。

人と防災未来センターを離れてからは、地域と連携した防災・減災対策、特に津波避難対策について検討し、それらの取り組みをモデル化することを中心に行ってきました。主な活動としては、防災まちづくり活動と学校の防災教育を実践的津波避難訓練によって連携させる取り組み、観光地の津波避難対策、車両避難に関するルール作成、小学校発の津波避難対策の情報発信、GPSを利用した津波避難行動の検証等です。またその間に東日本大震災、2011年台風12号災害が発生したため、それらの調査・研究にも従事しました。ここでは、孤立地域・孤立集落における災害対応の課題と対策のあり方等について検討してきました。

今後しばらくは、広域災害をテーマとした減災システムに関する研究活動を行っていきたいと考えています。特に、阪神・淡路大震災、東日本大震災の問題と対応を鑑みつつ、南海トラフ地震への対応方策のあり方について、多くの方々と協力・連携しながら取り組ませていただきたい所存です。よろしくお願いいたします。



研究員 菅野 拓

ニュースレターをご覧の皆さま、初めまして。4月に人と防災未来センター研究員に着任した菅野拓です。私の専門は人文地理学、特に都市社会地理学でしたが、大学院在学中の2011年3月11日に東日本大震災が起り、民間側の支援に関わるようになりました。発災後3月12日から、NPOや生活協同組合が連携した緊急物資の配送スキームを立ち上げ、3月19日からは仙台にて現場コントロールを実施し、行政経由で物資が配送される公設の避難所へ避難できなかった人をターゲットとして、私設の避難所や社会福祉施設等に食糧から生活用品までニーズに合わせて配送していました。また、3月末には仮設住宅入居者支援のスキームを策定し、行政や民間助成機関を中心として提案していました。その提案の結果、仙台市との協働事業として6月1日から仮設住宅入居者の見守り支援、11月からは仮設住宅入居者への就労支援を実施することとなりました。これらの事業は現在も続いており、被災地から広く被災者を受け入れる都市、仙台において、一定の役割を果たし続けています。

上記のように支援者としての側面を中心としていたものの、研究者としての目も持ちながら約3年間を過ごしました。一種の異常状態の中でフィールドワークを実施していたようなもので、さまざまな事実や課題に出会い続けました。これらの出会いを次の災害や次の社会で生きる学術的かつ実践的な知へと変換していくことが大事だと思い、人と防災未来センターの研究員となることを目指し、今に至りました。

人と防災未来センターでは、行政の被災者支援制度とNPO・NGOを中心とする民間支援の実態についての研究に従事する予定です。このセンターや関係するネットワークには研究・実務を含め、多くの諸先輩方がいらっしゃいますので、諸先輩方からご指導いただき、社会にとって意味のある研究ができるよう、またそのような研究を継続できる研究者として成長したいと思っています。皆さま、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



新任研究員紹介

研究調査員 高橋 広昭

初めまして、岐阜県から、1年間、研究調査員として派遣されました高橋広昭と申します。日々の業務に追われる県職員生活から一転して、研究環境に恵まれた人と防災未来センターで実践的な防災研究を行うことになりました。私は、これまで防災業務に深く携わることはありませんでしたが、このような大変貴重な機会を与えていただきました。災害に対する事前の備え、初動対応、被災地の復興、記録の伝承など防災に関する取り組みは、非常に多岐にわたっており、ここでの経験を今後の業務に幅広く生かしていきたいと思っています。



自治体では、南海トラフの巨大地震や首都直下地震などの超巨大地震に備え、防災対策の推進が最重要課題の一つとなっています。地域防災計画等の各種計画やマニュアルの見直し、防災施設の整備、被災者の受け入れ支援の検討、住民の防災意識の向上、NPOや民間等の各種団体との連携など、いくつもの業務を行っています。

さらに、近年、ゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な集中暴雨が多く発生するようになりました。これから本格的な出水期を迎えるに当たって、住民への防災情報の効果的な提供など、被害を最小限に抑えるための対策が必要となっています。限られた予算と人員の中で、山積する課題の解決に当たる防災部局の担当者の苦労は計り知れないものがあります。

このニュースレターをご覧いただいている自治体職員の皆さまの中には、この春から防災部局に異動なり、不安を抱えておられる方もたくさんいらっしゃると思います。また、日々の業務に加え、常に災害に対して緊張感を持ち続けなければならない、災害警戒や災害対応のための非常参集など、精神的、体力的にもストレスを感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そうした方々の思いを感じながら、当センターの一員として防災に関する調査・研究を行うとともに、皆さまとの交流を通じて、自治体の担当者の方々が防災業務に対して意欲を持って取り組むことができるように少しでもお役に立てればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約／TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

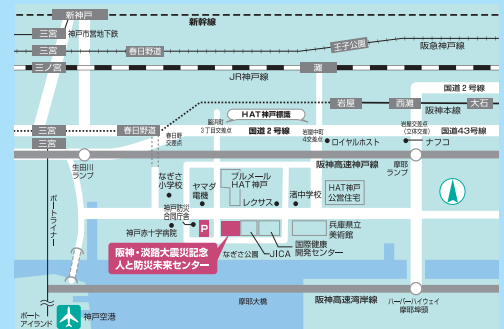
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅から約15分
 - ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制／無料)あり



新任資料専門員紹介



深井 美貴

4月から震災資料専門員として採用された深井美貴です。愛知県豊田市の出身で、名古屋大学および大学院修士課程で日本史学を修めた後、九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻修士課程を修了し、こちらに配属されました。

専門は近現代史と、情報のメタデータの電子化および共有化です。2つの大学院で得た幅広い知見を基に、利用者の視点に立った資料整理を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



村上 しほり

4月に資料専門員として着任した村上しほりです。この春、神戸大学大学院の博士課程を修了しました。専門は近現代日本の都市史です。中でも、第二次世界大戦後の復興過程の都市における人々の生活再建に向けた営為が、どのような集約的環境形成として空間的に表れたのかという点に着目して、神戸のヤミ市の生成と展開について研究してきました。

資料室では、来室者とのコミュニケーションを重視したきめ細やかなレファレンスを目指すとともに、人々の生活再建や都市の賑わい創出を担う商店街や小売市場の震災復興のあゆみを、戦後神戸の都市形成史に位置付ける展示を行いたいと思います。ご指導ご鞭撻賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



岸本 くるみ

初めまして、岸本くるみです。震災10年の年に舞子高校環境防災科を卒業し、神戸学院大学で防災教育に触れ、青年海外協力隊としてエルサルバドルへ行き、東日本大震災後は被害に遭った写真の修復プロジェクトのスタッフとして活動しました。

震災20年になる今年度より資料専門員のご縁をいただき、神戸で地震に遭った小学2年の私が少し大人になって帰ってきたような気持ちです。

たくさんの方々のおかげで迎えている日々、一緒に楽しい空間をつくっていきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

「震災関連資料」提供者の体験談がスマートフォンで閲覧可能に!

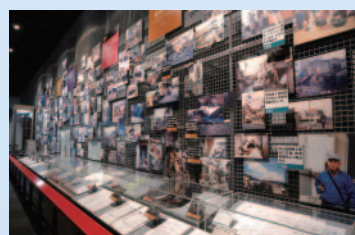
人と防災未来センターでは、西館3階「震災の記憶を残すコーナー」で、被災者から提供された震災関連資料を展示しています。

これまで、資料提供者の体験談を視聴するには、同階設置のパソコンか無料貸出モバイルの利用が必要でしたが、このたび新たに「スマートフォン用ガイドシステム」を導入することにより、お手持ちのスマートフォンやタブレット端末で簡単にご覧いただけるようになりました。



アプリをダウンロードする必要はなく、西館3階展示フロア専用Wi-Fiへ接続し、WEBブラウザからガイドシステムにアクセスするだけなので、誰でも簡単に利用できます。日本語だけでなく、英語・中国語・韓国語にも対応しています。

展示資料を観るだけでなく、資料提供者である被災者の経験や思いを知ることができるため、これからの防災・減災を考えることにもつながります。スマートフォン用ガイドシステムをぜひ、有効活用してください。



Hem21NEWS
vol.45

平成26年5月発行

(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください